

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 群馬県立二葉特別支援学校 】

1 実践テーマ	I・IV・V
2 実施対象者 (学年・人数)	本校児童生徒 98名(小学部1年～中学部3年)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科等名(体育科、総合的な学習の時間) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピックの歴史や競技について知り、オリンピック・パラリンピックの開催に向けて期待感をもつことができる。 ○日本の伝統や世界の文化を学んだり、友達と一緒に体験したりする中で、日本と世界の国々への興味関心を高め、また友達と交流する楽しさを実感することができる。
5 取組内容	本校の児童生徒は、学習面や健康面、身体の動き等の実態差が大きい。そのため、事業にかかわる実践に取り組むためには、その実態差に合わせた取り組み内容を柔軟に検討していく必要があった。また、今年度は、感染症対策を講じながらの授業となり、行事や活動等、計画を一部変更して行った。 以下紹介する取り組み内容は、各クラスの授業内容に関連させて取り組んだものもある。 各クラスの授業内容に関連させて取り組んだオリンピック・パラリンピック教育 ○体育科「ボッチャをしよう」 準ずる課程の小中学部児童生徒が合同でボッチャを体験した。ルールについて説明し、実態に応じたレーンを用意し、一人一人が自分の力でボールを転がせるように工夫した。楽しくボッチャを体験する中で、オリンピック・パラリンピックに興味・関心を向けたり、先輩や後輩とまた交流したいという気持ちを表したりする姿が見られた。



○体育科「伝統的な武道を知ろう～表現運動～」

空手の歴史を伝えてから、空手競技に取り組む職員が、空手の型を披露した。演武を見てから、新聞紙を使って突きや蹴りを体験した。テレビ等で見ることはあっても、目の前で実際に空手の実演を見るのは初めての児童が多かったため、その迫力に感嘆の声を上げた。空手の突きや蹴りを体験し「楽しかった。」「気持ちよかった。」と喜んでいた。空手の歴史や技のみでなく、「空手は人を傷つけるものではない、身を守るためのものである。」と伝えると真剣な表情で聞いていた。



○総合的な学習の時間「世界の国々を知ろう」

世界の国々の国旗、建造物、食べ物、通貨の写真カードを用意し、神経衰弱ゲームの方法で、同じ国のカードを集めるという学習をした。ヒントとなる資料を黒板に貼り、自分で考えられるようにした。手が届かない位置にあるカードについては「とってください。」と友達に依頼するなど、協力して取り組む姿が見られた。この活動を通して、世界の国々に対する興味が広がり、「もっと調べてみよう。」と意欲を見せるようになった。



6 主な成果	<p>○オリンピック・パラリンピックに関する知識の習得 今年度、オリンピック・パラリンピックが延期になってしまっ たが、歴史や競技についての話を聞いたり、実演を見たり、体験 したりする中で、オリンピック・パラリンピックへの関心と開催 を楽しみにする気持ちを高めることができた。</p> <p>○世界の国々への興味関心と、学習意欲の高まり 神経衰弱ゲームのやり方で、楽しく学習する中で、世界の国々 への関心が高まった。1枚ずつカードをひく度に「どこの国か な？」などと周囲の友達が気にかける様子が見られ、自然に学び 合う雰囲気が出ていた。気になった国についてはその後、調べ ようとする姿も見られ、この学習をきっかけに世界の国々への興 味関心が広がったり、友達同士の間で話題にしたりすることが増 えた。</p> <p>○友達と共有できる楽しさから主体的なコミュニケーション 友達とともに活動する中で、かかわり合いを楽しむ様子が見ら れた。声を出して協力を依頼し、手伝ってもらった時の喜び、勝 敗の結果だけでなく、力を合わせて最後まで取り組んだときのす がすがしい気持ち等、活動を通して様々な感情を体験することが できた。学年や学部の枠を超えて、かかわりを広げたり、自分か ら相手に働きかけたりする場面が増えた。</p>
7 実践におい て工夫した点 (事業の特色)	<p>今年度は学校全体として同じ取組を行うことが難しかった。 そこで、オリンピック・パラリンピックに直接焦点を当てた 学習のみでなく、広い視野に立って、我が国、世界の国々への 知識理解、そして友達との交流の楽しさを視点にし、広い視野 で学びの機会をつくるようにした。</p> <p>自分で操作できるような補助具、理解を促すための視覚的な 教材、扱いやすい素材、動きやすい配置等を工夫して、自分の 力で取り組めるようにした。一人一人にとってのオリンピッ ク・パラリンピック教育とは何かという視点も持って実践を行 ってきた。</p>
8 主な課題等	<p>感染対策への配慮や授業時間確保等を鑑み、今年度は活動が制 限されてしまうことが多かった。</p> <p>本校のように健康面や学習面、身体の動き等において実態差の ある学校では、取り組み内容を柔軟に検討する必要がある。児童 生徒の興味関心を生かしながら、どのような形で学習を進めてい くことが有効なのか、実態、ねらい、活動内容については、今後 も検討していく必要がある。</p> <p>来年度はオリンピック・パラリンピックが開催される。開催が 近づくにつれて、社会全体の盛り上がりを感じる場面が増えると 思われる。選手が活躍する場面や、開催を支える多くの人々の努 力について見聞きする中で、心に響く体験ができるよう、その下 地となる学習を計画的に進めたい。</p>
9 来年度以降 の実施予定	<p>本校においてボッチャは馴染みのある活動となってきた。社会 的にも認知されるようになったので、年数回行われる交流(今年 度は間接交流だったが)の場等で、本校の児童生徒がボッチャ等 のパラリンピック競技を広める一役を担えるとよい。</p>